

松禪寺報

<http://syozen.com>

石室山松禪寺

住職 高橋 乾峰
〒668-0363
兵庫県豊岡市但東町栗尾469
電話 0796-55-0034
FAX 0796-55-0066
Mail kenpou@syozen.com

第51号

発行日 平成24年12月25日

成道会

12月8日

仏教が誕生した記念日

12月8日は、私たち仏教徒にとって、お釈迦様が悟りを開かれた大変重要な日、すなわち成道会に当たります。辞書を引けば、「成道」とは「成仏得道」のこととあります。「成仏」とは、さとりを開いて仏になることですし、「得道」は意味をよく理解して、自分のものとすることです。仏と成るといふことは、死んで仏とな



▲お釈迦さまが出家するまで過ごしたカピラ城跡(ネパール)。出家を決意する「四門出遊」を今に伝えている。

るに限らず、生きながらも完成された人間になることをお釈迦様はお示しになったわけですから、カピラ城(ネパール)の王子として生まれたお釈迦様は、生まれて間もなく母を失い、長じて王城の四門を出て、生老病死の苦悩を知り出家します。ヒンズー教のバラモン僧の中に入って難行苦行に励みます。自分を苦しめることで一切の欲望や執着を断ち切り、心の浄化をはかり、神秘的な力を得ようとした。しかし、数年間の苦行を経ても満足が得られず、山を下ります。



▲お釈迦さまが悟りを開かれたブダガヤ(インド)の大塔内部の釈迦像

やせ衰えたお釈迦様は尼蓮禪河でからだを清め、そこを通りかかった村の娘スジャータから乳粥の供養を受けます。生気を取り戻したお釈迦様は、ブダガヤの菩提樹の下で坐禅を組まれるのです。この間、修行の邪魔をしようと悪魔が襲いかかったり、風雨にたたかれるのですが、ひたすら坐禅を続けます。

ついに、お釈迦様35歳の12月8日の朝、夜明けの明星(金星)のひらめきをご覧になって、悟りを開かれました。推定ですが、今から2千4百年以上も前のことで、これが仏教が誕生した記念日ともいえます。お釈迦様をご覧になった明星は、今も私たちの頭上に輝いています。澄み切ったお釈迦様の心が明星となり、今の世でも一切の衆生が悟りを開くよう導いてくださるかのようです。「雪の山に昔仏の見し星の光は今にかかわらずものを」(仙厓和尚)

世界遺産 高野山 満願お礼参り

高野山へなごやかに参拝、白浜観光も満喫

10月29日・30日の2日間にわたって高野山へお参りし、四国八十八ヶ所霊場巡拝の満願を果たしました。総員12名参加。

29日(月)午前5時、楊岐院様(豊岡市日撫)を出発。午前6時前には当山駐車場を経て、午前10時44分に高野山へ到着しました。海拔9百メートルの高峰にある33万坪の盆地にあるといいますが、その規模には驚くばかりです。さすがに少し寒く感じましたが、紅葉も美しく、歴史の深さと重みを感じながらお参りしました。

高野山は弘法大師(空海上人)が嵯峨天皇の弘仁7年(八一六)真言密教の根本



▲高野山奥の院の参拝を終えて安堵の記念写真

無事満願を迎えたことを伝え、拜塔いたしました。午後2時半、高野山の満願お礼参りを済ませてバスは出発。龍神スカイラインを経て宿泊地である白浜温泉へ。今宵の宿は、白

道場として定め、また、自らの入定の地として開創された霊場です。

まずは、金剛峯寺を拝観。高野山真言宗の総本山として、全国及び海外の末寺4千ヶ寺の行政を統括する中心寺院です。大広間や書院、庭園を拝観しました。

昼食を挟んで奥の院へ向かいました。ここで、静かに読経して、



▲紅葉も美しい高野山

良荘グランドホテル。きれいな白良浜が一望できる絶景の宿でした。

翌日は午前8時半、ホテルを出発。千畳敷や三段壁を観光、白浜とれとれ市場でしっかり買い物、さらに、備長炭備長館で備長炭の見えるまでを見学、梅干館ウメタを見学して買い物もしました。

お昼は御坊市へ移動して、お食事処「日高川」へ。価格お手頃なるも豪華な食事で、皆さん満足でした。



▲白浜観光も楽しみました。

午後は、安珍と清姫の物語で有名な道成寺を拝観しました。大宝元年(七〇一)の創建ということで、和歌山で最古のお寺だそうです。ここでは、安珍と清姫の「絵とき説法」(約40分)を拝聴し、さらに歴史の深さを象徴する仏像の数々を拝観しました。絵とき説法でいわれた「親に孝行 子に慈愛 妻宝極楽 一家繁栄」を心にとどめ下山。

午後2時半過ぎ、道成寺を出発して一路但馬へ。午後7時には但東町へ無事帰り着きました。無事円満に仏の心を成就することができました。万歳。

発願・平成22年4月26日
結願・平成24年4月25日
満願・平成24年10月29日

※平成25年4月23日〜25日に、四国別格二十霊場巡拝を行います。和尚とお参りする霊場巡拝は、親睦も兼ねています。ぜひ、多くの皆様の参加を期待しています。

檀家皆さんのお参りで

達磨忌と開山忌を執行



▲参拝者皆さんと読経、達磨大師の遺徳を偲びました

の少林寺に入り、面壁して坐禅すること9年に及んだといわれています。中国の禅宗は、この達磨大師をもってはじまりました。

当山では、11月3日に達磨忌

を、併せて当山の開基・開山忌を営みました。本堂正面に達磨大師像を置いて荘厳、掛け軸も掲げてお参りの皆さんに見ていただきました。お昼には、当番さん手作りのけんちん汁や白和えなどのご馳走を皆さんでいただきました。夜には、兼務先の桂昌寺でも同様に達磨忌を営みました。

山陰東教区第二部の特別布教開催

花園会員など約百名が法話「行ずる」を拝聴

平成24年度の山陰東教区特別布教を、11月7日(水)午後1時半から観音寺様(朝来市和田山町)で開教しました。当日は、部

内の花園会役員さんをはじめ、檀信徒、各寺院の正副住職ら約一百人が出席、広い本堂も満席となりました。当山はじめ兼務寺院の総代も4人出席していただきました。



▲法話を拝聴する皆さん=観音寺(和田山町)

開会の挨拶を、教区二部花園会の会長であり観音寺総代でもある福井惟士さんに述べていた

大分市からお越しいただいた入不二香道師です。テーマは「行ずる」く生かされている自分を感謝し、報恩の行を積みましょ



▲「行ずる」を演題に法話される布教師・入不二香道師(大分市)

うくで、約1時間半にわたり話していただきました。法話のなかで、「自分の心で起こったことは、自分の心でしか解決できない」とし、呼吸を調べ、自分を省みる、等身大の自分を知る事の大切さを述べられました。また、「恩送り」の話を紹介され、自分が受けた恩を、さらに自分の周りの人々へ施す実践こそが「行ずる」の基本であることも説かれました。

除夜の鐘を撞きましょう



除夜の鐘心新たに
良き新年を

行く年来る年、大晦日は除夜の鐘を撞いてみませんか。今年も大晦日には、お参りの皆さんによつて除夜の鐘を撞きま

す。
除夜とは、除日(じよじつ)の夜といい、旧年を除く日と辞書にはあります。その夜に鳴らす「除夜の鐘」は、年を越すにあたり人の心にある百八つの煩惱を清らかな鐘の響きで鎮め、新しい気持ちで新年を迎えようとする仏事のひとつです。
12月31日(月)の午後11時45分頃から撞き始める予定です。本堂、薬師堂へのお参りもできます。温かい飲み物なども用意していますので、ぜひお参りください。

お願いとお知らせ

◆新年度の評議員 について

評議員(14名)については一年で交代される地区が多いのですが、新たに評議員となられた方のお名前の報告を速やかにお願いいたします。評議員総会は、明年2月中旬を予定しています。

◆年頭について

正月2日(水)より年頭に各檀

平成二十五年 年忌法要

平成25年(二〇一三年)に年忌法要を迎える故人の歿年度は左記のとおりです。法要の実施日については、なるべく早めにご連絡ください。年忌正当年にあたられるご先祖様がおられるかの確認は、寺へ電話でお尋ねくださるか、年忌操出を本堂に張り出しています

家さんを回らせていただきます。2日は但東町内を回り、それ以外は3日(木)に回りますので、よろしくお願いいたします。

四国別格二十霊場 巡拝のご案内

平成25年は春と秋の年2回、四国別格二十霊場巡拝の旅を実施します。その第1回「百八煩惱生滅の旅」(香川県、愛媛県、高知県)を先のとおり実施します。過去に四国八十八ヶ所霊場を巡拝された方々、八十八ヶ所も巡拝したこと

ので、寺にお越しの際にご覧ください。また、年明けには個別に通知を差し上げます。

【平成25年度年回表】

- 一周忌 平成24年没
- 三回忌 平成23年没
- 七回忌 平成19年没
- 十三回忌 平成13年没
- 十七回忌 平成9年没
- 二十五回忌 平成元年没
- 三十三回忌 昭和56年没
- 五十回忌 昭和39年没
- 百回忌 大正3年没

が無いという方々も大歓迎です。
期日：4月23日(火)～25日(木)
旅費：一人5万5千円(納経物、納経料別)。申込は、2月28日までに旅費を添えて松禪寺まで。
※日程等詳細は、松禪寺まで問い合わせてください。

大本山妙心寺での 奉仕作業のご案内

山陰東教区花園会女性部では、大本山妙心寺で奉仕作業を行う「おかげさま奉仕団」を実施します。日頃のご先祖様への感謝の気持ちを、本山での奉仕作業という形に表し、ご先祖への恩返しをされてみてはいかがでしょうか。通常の団参と同様に、法話や法要もあります。ぜひお誘い合わせのうえご参加ください。

期日：3月30日(土)～31日(日)
旅費：お一人様2万円/宿泊先：花園会館/申込み：平成25年1月末日までに旅費を添えて松禪寺まで。※詳細日程は、松禪寺まで問い合わせてください。
〈主催〉山陰東教区花園会女性部
〈後援〉山陰東教区宗務所